

地方公共団体からの寄附受入れ

■平成25年4月受入れ分

1. 寄附者	2. 寄附の金額	3. 寄附の内容	4. 寄附に至った経緯
宮城県	30,000,000円	感染症診療地域連携寄附講座の設置	感染症は地域で伝播拡散する特殊性を有することから、県民の安全・安心の基盤である地域医療において、感染症診療における地域連携は最も緊急性かつ重要性の高い課題である。本来、医療施設・社会福祉施設などが地域全体で感染症診療に関する連携協力を構築する必要があり、行政との連携も含めた地域社会全体を含めた対応が求められているものの、我が国で感染症診療に関する地域連携を行う大学講座はないのが現状である。以上のことから、宮城県地域医療における感染症診療に関する人材育成、連携協力、適切な医師の配置などを目的として、宮城県から寄附を受け、平成22年4月に本寄附講座を設置した。
宮城県	30,000,000円	周産期医療人材養成寄附講座の設置	周産期を専攻した医師に興味ある育成カリキュラムを提供し地域の医療情勢を考慮しながら医療に取り組む高度な周産期医療人を育成するためには、卒前・卒後の一貫した教育カリキュラムを考え、大学と地域を循環しながらキャリアアップしていくシステムの構築が必須である。このような育成カリキュラムと評価システムの開発が急務ではあるが、それには大学教育と地域医療にまたがり周産期医療全体を俯瞰しながら考えることが必要で、既存の講座や分野では困難である。 以上のことから、宮城県からの寄附を受け、平成22年4月に本寄附講座を設置した。
宮城県	30,000,000円	予防精神医学寄附講座の設置	東日本大震災によりPTSDやうつ病など様々な精神疾患、自殺など心の問題が顕在化しつつあり、被災地の大学としてこれらに対応することは必須である。しかし、これに必要な人員や資材は膨大であり、現状の研究・診療の体制の中ではそれを確保することは困難であることから医学系研究科に相当の人員を要する寄附講座を設置し、被災地の要請に応えるものである。同時に、宮城県では震災に特化した精神保健福祉医療体制を構築するために「心のケアセンター」を設置するが、本寄附講座と同センターが連動することでより効率的に被災地の支援体制が作られる。 以上のことから、宮城県からの寄附を受け、平成23年10月に本寄附講座を設置した。
宮城県	50,000,000円	宮城地域医療支援寄附講座の設置	地域医療の崩壊は深刻で、その対策は急を要する。特に地方の市町村では、医師不足、看護師不足は深刻である。また、中核的医療機関ではスタッフの高齢化が進み、中堅スタッフが少なくなっている。さらに開業医の数も減少し、高齢化している。このような現状を招いている原因には、地理的問題、地域医療に携わるスタッフのキャリアパスなどの問題があり、地方の医療に長期的に携わる人材を確保することは極めて困難である。このような現状を改善するためには、若手・中堅医師や看護師がキャリアアップをしながら地域医療を担うシステムの構築、および、高度機能病院と地域医療に貢献し、その経験を生かし、若手や中堅が地域医療に貢献しながらも、先進的医療や教育・研究を継続することができ、自身のキャリアを形成できる柔軟、かつ系統的な地域医療支援体制を構築していることが重要である。 以上のことから、宮城県からの寄附を受け、本寄附講座を平成24年4月に設置した。
宮城県	40,000,000円	小児科医師育成寄附講座の設置	医師のキャリアアップにとって魅力ある小児科医師育成プログラムを確立し、全国から広く小児科医師を呼び込み、小児・新生児の医療を担う質の高い小児科医師を養成して、小児科医師が不足している県内各地域へ配置することを目的とし、宮城県からの寄附を受け、本寄附講座を平成24年4月に設置した。